

2023（令和5）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	142800021	事業の開始年月日	平成18年9月1日
		指定年月日	平成30年9月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東		
所在地	( 224-0006 ) 神奈川県横浜市都筑区荏田東4-14-12		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナウィルスの感染対策の徹底により感染者なく現在に至っております。第5類に入り少しづつではありますが新しい企画などにより地域との連携をとりながらお祭りなどへ参加したり、公園掃除へも協力させて頂いています。3年という長い時間の影響もありADLを低下させない様なプログラムを考えて取り組んでいます。特徴的な短期記憶に関しても諦めるのではなく、毎月に行ったレクの写真を壁面に掲示し、利用者も足を止め職員との思いで話に花を咲かせています。ホーム見学の方やご家族様にも好評を得ています。新しく自慢のガーデンで犬との触れ合いの時間を作り、飼っていた頃を思い出す利用者や認知症を理解して頂くふれあいの場として地域の方へも声掛けをおこない参加して頂いています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年12月18日	評価機関 評価決定日	令和6年3月19日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

横浜市営地下鉄ブルーライン「センター南」駅を下車して徒歩15分ほどの所にあります。周りの住宅街に溶け込み、中庭や小さな畑に囲まれた木造2階建てのグループホームです。

<優れている点>

平時より有事に備え、業務継続計画（BCP）を策定し、防災認識を高めるために机上訓練や煙体験を実施しています。職員は、想定できる災害をイメージしながら自分自身や利用者の行動手順を図面上で確認しています。また、煙体験では消防署指導の下、煙の怖さを学んでいます。設営したテントの中に安全性の高い成分を使用したドライスモークを使用し、火事に巻き込まれた際に慌てず避難できるように利用者も体験しています。また、シニアセラピーとして、セラピストによる足先の血流を促進する足裏療法、豊かな表情が期待できる顔面療法を取り入れています。

<工夫点>

新しく入居した人の環境の変化からくる不安や戸惑いなどを緩和できるように、食事の時間などを記した日課表を個室に掲示しています。時間の確認、今、何をする時かなど一目でわかるように伝え、利用者の保有能力を引出す工夫にもなっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を共有し実践に繋げている	グループホーム職員で意見を出し合い、「みんな元気に楽しく、共に生きる」という事業所理念を立ち上げています。いつでも目につくところに掲示してあり、共有を図っています。「楽しく」、「共に」というキーワードで管理者も率先して話しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域や自治会での行事に、参加できる場所から参加したり、レクの一環で散歩のとき等で行き会った地域の方とお話ししたり交流している。	自治会に加入し、毎月の回覧で地域情報を得ています。次年度から自治会の会合への参加を予定しています。管理者は自治会交流において顔の見える関係性づくりを築こうとしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々へ理解や支援の方法を実践できるよう実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会でいただいた意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年に6回開催し、会の中で出た意見から消防の指導のもと「煙体験」を実施しています。地域交流も兼ねて「ヨガ・リズム・タオル」体操をインストラクターを招いて実施しています。地域の人々の参加もあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	連絡をとり、協力関係を築けるよう取り組んでいる	横浜市の高齢支援課と運営推進会議やホーム内イベント行事、事故報告等で緊密な連絡体制を築いています。正月の獅子舞の踊りに関して、市役所に調べてもらい主催者につないでもらい、見学・参加することができた事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修を行い拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を年に6回実施しています。議題テーマとして、法人で検討する共通事項をピックアップした中から、身体拘束の事例等を取り上げグループホームで検討しています。スピーチロックや不適切ケアに至らないように理念を念頭に入れた対応をしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修や職員間での声掛け・掲示物により虐待防止に努め、取り組んでいる	虐待防止委員会を通して事例などに触れ、「自分への戒め、襟を正す、自分自身の振り返り」をしています。ストレスの回避や意見を聞く場として個人面接を年に2回実施しています。公私の切り替えを促し趣味活動における有休活用などもあります。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個々の必要性を話し合い活用し支援できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明をし理解・納得をはかっている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や面会時で聞いた意見を運営に反映させている	家族会を実施しています。コロナ5類の移行後は、ホーム内イベントへの参加や一緒に外出することを再開したいとの意見があり、実施の方向へ進めています。管理者は、「思い出の時間づくり」を念頭に、多くの人に心に残る思い出づくりの創出を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案を反映させています。	全職員に対して年に2回の個人面談を実施しています。建物内の利用者動線で見通しの効かないところを、何とかできないかとの意見があり、皆で考え、カーブミラーの設置を試みました。収納場所の効率的活用についても意見を反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の希望に寄り添ったシフト作りを行ない、向上心をもて働ける様に整備されている。	管理者は個人面談の際、合わせて各自の目標についてヒアリングをしています。外部研修は全職員に周知していません。法人が指定した一部の研修について、参加する職員は勤務扱いとし、費用は法人負担としているものがあります。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人の実力に合わせてトレーニングできるよう努めている。法人内研修を積極的に取り込んでいる。	新入職員は先任職員と一緒に業務をしながら学びを深めています。身体拘束禁止、虐待防止、感染症対策を含め、毎月研修の機会があり、目標達成に合わせた評価制度はモチベーション向上につながっています。	研修の機会は毎月内部研修の形で確保されています。さらなるステップアップとして、認知症のプロ集団を念頭に、認知症の専門分野に特化した知識吸収の機会に向けた研修の展開が期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	感染症の緩和で今後相互訪問等の活動を行いサービスの質の向上に活かしていきたい		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々コミュニケーションをとり、困っている事などを探り、安心して過ごして頂ける様な信頼関係を築くよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様と情報共有し、連絡を取り合い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	情報を共有することで要望等を聞き必要な支援の見極めを行なっている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常家事やレクを通し、安心して頂けるような関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様との情報共有を行ない、安心して頂けるような関係を築いている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染の解除により、面会の制限も緩和され大切な関係性が途切れない様な支援を行っている	入居前から楽しみに見ていた旅などのテレビ番組や、DVDを入居してからも続けて見ている人もいます。その他にも編み物をしたり、友人との電話や葉書のやり取りなど、職員は長年馴染んだことが続けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を考慮した座席の確保。トラブルの発生時や不穏になってしまった時には職員が入り関係の修復にあたっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も必要に応じ相談や支援を行なっている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人やご家族様の意向を把握し、プランに反映されています	家族が面会に来訪した際に意向を聞いています。整容や衣替えについて確認をする人もいます。電話での聞き取りや面会時の会話から意向を確認し共有しています。本人からの外出や外食の希望などは、お茶を飲みながらさりげなくヒアリングしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や既往歴等、本人への聞き取りやご家族様よりの聞き取りで把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの有する力を見極め福祉用具の使用含め現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	サービス担当者会議で情報を共有し本人にとって心地よい介護計画を作成している	日々の暮らしを良くするための課題とケアのあり方は、アセスメントやフェースシートに記録しています。記録した情報は職員がいつでも確認できるようにしています。本人・家族、看護師、職員、ケアマネジャーと意見を交わし介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化等を日常的に共有し介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスにとらわれず、柔軟なサービスの提供に取り組んでいます			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し楽しんで頂ける様支援している			
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設往診医だけではなく、ご家族の意向や協力の上で適切な医療を受けられるよう支援しています	月2回の訪問診療があります。外部の病院へ入院する際の同行は、家族対応を依頼しています。緊急時は直近10日分程の情報を収集し伝達しています。薬の変更の可能性がある時は、前もって家族へ連絡しています。精神科受診の際は、必要な情報を予め揃えて伝えています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師により、利用者個々の様子を伝え相談し、適切な支援が行えるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には早期退院できるよう、情報交換をし必要な支援の準備を行っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階から本人や家族と話し合い、終末期に向け意向や方針を職員間で共有し支援に取り組んでいる	食事の様子や水分摂取状況等から、必要な時期をみて、看取り計画の契約を交わします。家族や医師と意見を確認し、点滴の判断などを話し合います。それを受けて全員の統一したケアを行います。看取った後は、利用者に対する感謝の気持ちと共に、ありし日の暮らしの写真集を家族に手渡しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応には、マニュアルを使用し実践できるようにしている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練を行い、災害時の避難対策を身に付けている。	業務の中で目に付く場所に、「あなたの避難場所はつづきの丘小学校です」と書いたポスターを掲示し平時から意識しておく事、万が一の時に、どこにいても応えられるように工夫しています。水害時は2階へ、火災時は駐車場へ避難します。訓練では、煙体験も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重しプライバシーの確保が出来るような声掛けや対応をしている	「やさしい声掛け」と書いた標語を目につくところに掲示しています。接遇は利用者の尊厳を前提に、丁寧な言葉を意識しています。職員は業務に入る際は、公私の気持ちを切り替えることを心がけ、ふとした時に出てしまった不適切な言葉に対しては、その場で互いに注意し会える環境を作っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃から希望を言える環境をつくり、選択できるような働きかけをし自己決定出来るよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の変化に合わせ、無理強いせず希望に沿った支援が出来るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みの洋服や生活歴などから、その人に合わせた整容を支援している		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の行事に合わせた食事の提供をし、片付けや準備など工夫を行なっている。一人ひとりのADLに合わせた食材の形状も考慮している	事業所の敷地に畑があり、採れた野菜をフレッシュなサラダとして、その日の食事に添えることがあります。収穫は利用者が自ら積極的に行っています。利用者が切る・混ぜる・洗い物をするなど、保有能力を生かすことができることに参加をしてもらえるように声掛けもしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の必要な食事量や水分量を確保できるよう、支援している。好みも考慮し必要なら補助食品も用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	状況に合わせた声掛けや介助を行なっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意の不透明な方へも、時間を見ながらトイレの声掛け誘導を行なっている。	自立に向けて、一人ひとりの排泄の状況を把握し、パソコンと手書きノートを併用し情報を共有しています。誘導が必要な人への声掛けは歯磨きの後などルーティーンの中で誘導しています。夜間は大きめのパッドで対応し、安眠を促しています。	「安眠を目指す」は耳慣れない言い回しですが、「安眠できるように」だとつまらなくなりますか
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や水分調整を行ない、必要に応じ乳飲料の提供など、便秘の予防対策を行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	無理強いせず、タイミングを合わせた入浴で清潔の保持が出来るよう支援している	利用者本人の希望を取り入れ、入浴のタイミングを確認しながら声掛けをしています。午後に入浴する人も午前から入浴の声掛けを行うことで、気持ちの準備を促しています。拒否のある人には、足浴から声掛けするなどの工夫もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その日の状態に合わせ、休息の時間を設けたり、安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤について学び、自己判断しない様確認し服用して		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常家事やレクリエーションの提供で楽しみごとや気分転換などが出来るよう支援しています		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	普段は散歩などで戸外に出かけています。ご家族の協力や意向により普段行けない遠距離や外食など出かけられるような支援をしています	川沿いの散歩道に出かけています。ホットタイムガーデンと名付けたホームの中庭では、利用者がたくさんの花を植えたり、セラピー犬との触れ合いや、お茶やケーキを用意した茶話会などで、利用者の気分転換の場になっています。ホームの畑を見守るの歴代の親子のカカシは利用者が制作したものです。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望を伺い購入できるような支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話での会話は可能な限り対応しています。手紙を下さるご家族へはお返事をかけるような声掛けをしています。またレクリエーションの一環で季節のハガキ作りなどを行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁面の掲示物を月毎に変えて季節感を取り入れています。居心地が良くなるような工夫をして過ごして頂いています	玄関ホール「おもひで写真館」では家族が利用者の写真を持ち帰れるような工夫をしています。自身の写真を見付けて思い出になることもあります。ヨガ・リズム・タオル体操、就寝前のパックや化粧療法を取り入れネイルサロンをするなど、利用者が前向きな気持ちになるようQOL（生活の質）の向上に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者同士で近くに座り楽しく過ごせるよう工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と連携し、好みの物や写真等を配置し居心地よく過ごせるよう工夫をしている	転倒時に備え緩衝材を居室の床に敷いている居室や、あざ予防に家具の角にタオルなどを巻いている居室もあります。新入居の人の居室内に、起床や食事の時間を見て確認できるよう日課表を掲示しています。日課が分かることで不安や混乱回避にもなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事を出来るだけ自立して生活が送れるよう工夫をしている		

事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を共有し実践に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事への参加、事業所イベントへの参加の声掛けなどを行なう。ブログやチラシなどで発信している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	独自の畑作りやガーデンを使用し、セラピードッグと一緒に茶を飲みながら、認知症の方と過ごして頂き理解や支援を頂ける様発信している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	体操等へ参加して頂き、取組み等意見を頂きサービスの向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	ブログやチラシなどで、サービスの取組みを伝え、協力関係を築ける様取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修を行い身体拘束等をしないケアに取り組んでいます		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修を行い。虐待について学びの機会を設けている。職員間でいつも話し合いをしたり、掲示物により注意を払い防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要に応じ活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際に不安や疑問点などを尋ね、説明・理解を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の開催や面会時に頂いたご意向等、職員間で共有し運営に反映させている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議を含め日常的に意見交換ができ、運営に反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望に寄り添ったシフト調整や、希望の資格・研修等各自が向上心を持って働ける様環境の整備に努めている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得や研修システムの利用で働きながらトレーニングしていています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍で出来なかったが、緩和されたことにより徐々に相互訪問など実施しサービスの向上に役立てていきます		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	個々に不安な事や要望など傾聴し、安心を確保するための関係づくりに努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の困りごとや要望などをお聞きし日々情報を共有しながら関係作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その都度必要としている支援を見極め、サービス利用の検討に努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	不安な原因や思いを聞き出す事によって、共存する仲間の関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃から連携をとり情報を共有し、共に本人を支えていける関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で出ていた制限の緩和により、馴染みの方の面会が可能になる。家族の協力により外出し馴染の場所へいく事も可能になった		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の変化や相性・力量等を考慮し家事分担などを行なう。座席の移動やレクの提供で孤立しない様な取組をしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も電話などでの相談に努めています		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや意向の把握に努め、ご家族の協力を頂きながら本人本位に検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や環境など、本人からの聞き取りやご家族からの聞き取りを行い経過の把握をしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の有する力や心身状態、福祉用具の使用状況など現状の把握に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	サービス担当会議や家族の意見やアイデアを反映し、現状に即したケアプランを作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を観察し、気づきなど個別記録入力し、職員間で共有。ケアプラン見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況の変化によって生まれるニーズに対して柔軟な支援が出来るよう取り組んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人が安全で暮らしを楽しめるよう、地域資源を把握し提供できるよう支援します		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設往診医だけではなく、ご家族の意向にも沿った専門医とも連携し、適切な医療を受けられるように支援します		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師に日常の中での困りごとや心配事を相談し、適切な受診が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族や病院と連絡・情報共有し、早期退院が出来るよう関係作りを行っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階から本人、家族と話し合い、方針の検討・共有をし本人や家族の意向に沿ってチームケアをします		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応にマニュアルを使用し、実践できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な訓練を実施し、避難方法を身に付け、地域との協力体制を築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を常に心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の中で常に傾聴し、希望を言える関係性作りを心かけている。自己決定を心かけた対応・声掛けをしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを大切にし、どのようにしたいか、何をしたいかなど聞きながら、出来得る限り近づけられるような支援をます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族の協力で、好みの衣類や化粧品等用意して頂いています		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節に合った行事メニューの取り入れや、食べたいものリクエストなど、日常の会話から食事もたのしんで頂ける様にしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方に必要な水分量や食事量を把握し、食事の進まない方へは、補助食品の用意また水分量の少ない方へは別の好みの飲料を用意するなどの支援をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科からの申し送りに沿った声掛けを行ない口腔ケアを実施しています		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	声掛けを行ないトイレの定時誘導を行ない、排泄の自立に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量の調整や、乳飲料の取り入れを行ない、散歩・体操・ヨガなどで快便に繋がるよう支援している		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	抵抗のあった日は別日にするなど、無理強いせず入浴を楽しめる工夫をし支援している。入浴剤の使用やお湯の暖簾での環境づくりをしている。季節によって外で足湯を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活習慣に合わせて居室で休まれたり、入眠時間までご自分の趣味の時間にするなど安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	その方の状態の変化を見極め、適切な薬剤調整が出来るよう医療と連携している。薬剤を理解し、使用法や量など薬剤師に相談、指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を活かした日常家事への役割分担。職歴なども参考に。趣味や嗜好にそったレクリエーションの提供で気分転換が出来るよう支援している。畑やガーデニング等土に触れるレクにはとても喜ばれています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の状態や状況と希望をお聞きし散歩や戸外のレクをしています。家族の協力で外食や買い物などにも出かけています。地域交流にはお手伝いの方の協力を頂き参加したりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	好みの物を選ぶ買い物等を取り入れた支援をしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や親せきからの電話で会話を楽しまれたり、希望があれば家族へ電話される等で交流をされている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有フロアの壁面を月毎に変え季節を感じて過ごせるような工夫をしている。灯りや音にも配慮し居心地良い空間作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性やADLに沿った席の配置をしたり、場所を変え利用者同士での会話ができるような工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の協力もあり、思い入れのある写真やお好きな花やテレビを置く事によって一人で過ごす時間がくつろげる空間作りを工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事は最後まで自分です。自分の事は出来るだけ自分で安全に出来るよう環境整備をしています		

2023年度

事業所名 グループホームみんなの家横浜荏田東  
作成日： 2024年 3月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域と密着したプログラムを作成	地域行事への参加 施設内でのレクへ参加の呼びかけ	地域委員会への参加によって、直接呼びかけを行ない、施設を知ってもらう事から始める	12ヶ月
2		敷地内を利用したレクリエーション	定期的なセラピードッグの開催	協力して頂ける犬の関係者を定着する	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月